

令和7年度 江戸川区立葛西第三中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>よく学び、よく考える自主性のある中学生（自発）</p> <p>心身共に健康で礼儀正しい中学生（礼儀）</p> <p>規律と責任を重んじ、よく働く中学生（責任）</p>	<p>目指す学校像</p> <p>目指す生徒像</p> <p>目指す教師像</p>	<p>1 生徒が自ら考え、主体的に学び、確かな学力を身につけさせる学校</p> <p>2 生徒の自尊感情を育むとともに、何事にも立ち向かっていく強い意志をもたせる学校</p> <p>3 生徒一人一人に充実感・満足感を体感させ、何事にも率先して自主的・主体的に活動できる学校</p> <p>1 自分で考え、主体的に学び、判断し、自ら率先して行動できる生徒</p> <p>2 心身共に健康で何事にも前向きに取り組み、輝いている生徒</p> <p>3 豊かな情操をもち、表現力豊かで社会性のある生徒</p> <p>1 共に力を出し合う教師(共育)</p> <p>2 共に汗を流す教師(協働)</p> <p>3 自らを高める教師(研鑽)</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <p>校内研修や教科部会を通して意見を交換し、指導内容や指導方法、評価の仕方等を共有し合い、授業力向上に努めた。また、教員間のOJTを充実させると共に、教員一人ひとりが自己研鑽に努め、課題の解決に取り組んだ。校内では学習・補習教室を充実させ、学力の底上げを図った。学校行事では生徒の主体性を尊重し、自己肯定感を育む教育活動を実践した。部活動では複数顧問による体制をつくり、教員の負担感を少しでも減らすとともに、技能の向上だけでなく、個に応じた指導を行い、体力の向上や心身共に健全な生徒の育成に取り組んだ。</p>	<p>課題</p>	<p>学校行事の充実と共に、3観点の評価・評定の方法、人権教育や特別支援教育、道徳授業の工夫や研修の実践、ICT機器の効果的な活用、を中心に校内研修を行い、教育活動のさらなる充実と教職員の資質向上を図った。それぞれの分野で、昨年に引き続き効果の検証と、課題の明確化、その改善に向けて行っているが、どの活動も生徒・教職員またはPTA活動等に負担を生じている機会があり、両立して行っていくことの難しさが課題に挙げられる。よい伝統は継承しつつ、行事や活動の精選や効率化により、生徒が学力向上や主体的に取り組める環境を構築していく。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	授業改善の推進、基礎・基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査や単元別・到達度テストの結果から、授業の工夫、放課後補習教室の外部機関との連携、長期休業中の補習等による基礎学力の定着や学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元別テスト(検定)各種コンテスト合格率80%を目指す。 調査一週間前の質問教室実施 放課後補習教室と授業進度との打ち合わせを都度実施 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年数学科の単元別検定では合格率95.3%を達成している。今後、他学年、他教科でも実施予定である。 1学期期末考査、2学期中間考査にて質問教室を4日間実施した。各日各教科10名程度が参加した。 授業進度に合わせて放課後学習教室を計画通りに実施している。学習効率を高めるためにはさらに連携が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の結果が全国平均を上回っており、家庭学習習慣や放課後補習教室等の成果とを感じる。授業は落ち着いており、学習環境も良好である。今後も家庭学習習慣の定着が必要である。 学習活動は基礎・基本の確実な定着や、学力の向上が図られている。一人一台端末の活用方法について、ルールや決まりを徹底し、学校や家庭学習で効果的に活用することが大切である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コンテストにおいては、1年英語で合格率81.7%、2年漢字85.2%、2年数学85.7%、2年英語68.8%であった。実施により家庭学習時間は増加し、意識の高まりが見られた。 区学力調査においては全教科で全国平均を上回る結果が出ている。 すべての定期考査前に質問教室を実施することができた。各日10名程度は放課後に参加し、成果を上げていた。 放課後補習教室を計画通りに実施することができ、出席率も高い水準を保つことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育と学力の向上を結び付けた研究発表は、教員集団の研究の成果がよく表れていた。 定期考査前の質問教室を開催していることは、学習に前向きに取り組んでいる生徒にとって励みになる取り組みである。 区学力調査の結果が上がってきていることは大変喜ばしいことであるが、これを維持、伸長できるように続けていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上について、成果を上げていることや、現在行われている取組などを、保護者や地域にさらに周知し、家庭学習にも結びつけられるよう、発信をしていく。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> よむよむワークシートの実践 朝読書の習慣化と充実 学校図書館巡回支援員との連携 学校図書館の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日10分間の朝読書の実施。よむよむワークシートを毎月の実施、読書科コンクールを全学年で実施、年間の読書量(冊数)を増加させる。 探究活動によって発表する機会を年間3回以上設ける。 月2回図書館の整備。図書館開放、貸し出し環境整備(バーコード化)。 	80%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝や総合学習の時間を使って、読書の習慣化を図っている。よむよむワークシートについても定期的に実施している。今後はビブリオバトル・弁論大会・読書コンクールを国語科の取組と連携させ実施予定。資料収集や記録の方法、発表を工夫し、さらに表現力を高め、探求心を深めていく。 図書支援員との定期的な連携、毎週の図書委員会での学校図書館を開放する機会を設け、環境を改善し、調べ学習や探求学習などで活用していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝や総合学習の時間を活用して読書活動が継続して行われ、読書や本に興味をもつことが増えたが、読解力を高める活動にはまだ至っていない。 総合的な学習の時間や国語科の授業等で読書活動を活かして、文章力や、読み取る力をつけ、表現する力を養ってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の朝読書の時間の確保、よむよむワークシートの実施について、計画通りに進めることができた。ビブリオバトル、弁論大会、読書コンクールを学年全体の取組や国語科との連携で実施することができた。 行事の前の調べ学習や、国語科の中で学校図書館を活用し、模造紙等にまとめるなど、図書館の活用を図ることができた。 貸し出し図書のバーコード化が完了し、貸し出し業務の環境が整った。これからさらに利用促進の方法を考える必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習の校内展示では、学校図書館を活用した結果を知ることができて良い。 朝読書、よむよむワークシートなど、朝の時間に心を落ち着ける時間をとれることはこれからも続けていただきたい。 図書の貸し出しについては、バーコード化が完了したとのことで、これからの貸し出し冊数、読書量の増加に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動をさらに充実させ、学校図書館の開館時間を増やす。全校体制で読書量を増やす取組の実施。 教科の授業において学校図書館を使う時間を増やし、図書館が身近である意識の向上を図るとともに、本を手にとる機会を増加させ、読書量の増加、国語力の定着を図る。

	外国語教育の充実 躊躇なく英語を話せる 生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上とALTの効果的な活用 小学校英語授業との連携 スピーキング力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ALT活用のアクティビティを毎時間取り入れ、話す時間20分を目指す。年中2回の小中交流会での意見交換。 	75%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> ALTを活用したアクティビティを毎時間取り入れている。英語授業での話す時間20分は実現できない時間もある。小中交流会で意見交換をしているが、連携強化が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ALTの活用については毎時間の英語の授業で効果的に活用されていると感じる。 躊躇なく英語を話せる生徒を育成するためには、さらに研究が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ALTは毎時の英語授業で活用が図られている。若手教員の指導員からも助言をいただきながら授業改善を図った。 小中交流会や小学校の研究授業に参加をし、意見の交換をしたが、連携強化はさらに研究が必要である。 1月より学力向上プロジェクトに参加し、学力強化を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語に対して苦手意識をもつ生徒は減っているように感じるが、「躊躇なく」までのレベルに引き上げられるよう、スピーキングテストの対策やALTをさらに活用していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上プロジェクトを有効に活用し、得点力を伸ばすとともに、苦手意識を減らしていく。 小中連携の日だけでなく、互いに授業観察をできる日を設定し、意見交換できる場を作る。
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間、運動会等の学校行事における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 常に体力測定できる環境を整え、生徒が自主的に体力向上に取り組める環境を作る。 学級、学年で各学校行事で目標を設定し、進捗状況を確認して集団活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じて生徒それぞれが休み時間に運動する機会を調整して、増やしていく。 学校行事等では、取組の初めに学級学年で達成目標を明確にして活動する。 	95%	95%	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会での学校行事、部活動を充実させ、 運動会においては、学校全体、学年、学級の目標を掲げ、高いレベルでの演技、競技を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会でのラジオ体操や競技において生徒が活き活きとした様子で取り組んでいる。体育授業や部活動等においても運動に意欲的であり、活動も盛んに行われている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みは多くの生徒が校庭で運動をしている姿が見られる。 運動会等の学校行事で、目標を明確にして設定し、同じ方向を向いて集団生活が円滑に行われた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の様子や、部活動の取組、実績を見ても、運動意欲が高いことが伺える。ラジオ体操はこれからも伝統として受け継いでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を分析、全教員に周知し、伸ばさせるべき分野について共通理解を図る。 集団への所属意識をさらに高め、活性化と並行して運動意欲を高める。
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎体力の向上に向けて体育の授業、部活動等による補助運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の授業で補助運動を意図的・計画的に実施する。 部活動の活性化を図り、補助運動については、体育科と連携して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の保健体育の授業の始めに補助運動を取り入れ体力増進を図る。 部活動では種目に応じた体力づくりを行い、基礎体力の向上を図り、前年度より体力合計点が上回るようにする。 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業では補助運動を計画的に実施し、基礎体力を定着させた。 部活動では体力づくりを積極的に行い、瞬発力・柔軟性を高め、個々の運動能力に応じて指導内容を工夫・改善していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や部活動等においても運動に意欲的であり、活動も盛んに行われている。 熱中症対策については徹底が必要だが、多目的室にエアコンが設置され、これからは改善が見込まれる。プール等古い設備が多く、施設の改善が急務である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上につながる活動を充実させ、保健体育の授業では補助運動を、工夫して計画的に実施した。体力テストの結果から、運動能力に応じて目標設定の基準や内容を改善した。 部活動や日常の体力向上を関連させて健康管理について考えさせ、日常での体力づくりを意識させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育授業は整然とし、充実しているとの声がある。部活動では常に校庭、体育館が使用されており、充実した活動が行われている。 部活動は教員の努力が大きいと感じる。外部人材の活用をさらに図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常での運動や体力向上を意識させ、体力テストでの目標を設定、意識を高めていく。 学級、学年、学校全体で行事の意義や集団生活の向上を目標にし、主体的に取り組む力を高める。
実現に向けた 教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの活用促進 特別支援校内委員会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルーム利用の周知・運用。 特別支援教室における環境整備と調整、不登校生徒への支援。 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの使用基本ルールの確認と柔軟な運用 週1回の特別支援校内委員会実施、共通理解と促進と連携強化 週1回の巡回指導の実態の把握。 	80%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームについては、基本ルールを確認しつつ、柔軟に運用している。利用人数が増加傾向にあり、管理運営に関する新たな指標が必要である。 巡回指導教員や専門員と定期的に相談することができる。 週1回の特別支援教室の指導で、他者との関わりや集団生活について学び、改善が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームは整理整頓されており、利用しやすい環境が整備されている。部屋が狭く、多くの生徒を受け入れるには適さず、校舎の改善が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジサポーターの配置では、常時2名体制をとることができ、前期よりも運営面で充実することができた。環境整備では、使用施設は整理整頓されているが、活用する生徒の人数も増えていることから、手狭な活動場所を改善していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校とのつながりを絶やさないための取組として重要なものを感じる。部屋としては綺麗に整備されているが、広さの面では改善が必要。支援員が充実していることはよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は支援員が多く確保できたが、年度により人数に変化がある。継続的に任用できる人材の確保が急務である。 生徒への支援の内容について、登校支援をするなど、更なる拡充をし、不登校生徒が一步学校に近づける対策が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会の活性化や組織体制の構築を図ることなどによる指導・支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターや専門員を中心に、巡回指導教員及び巡回指導心理士との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を月1回以上開催し、巡回指導教員と情報共有を図る。巡回指導心理士からの助言を特別支援教育に生かす。 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を月1回のペースで実施している。8月には巡回指導心理士を招いて研修会を開催し、特別支援教育についての理解を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会が定期的開催されていることは評価できる。地域住民としても、特別支援教育について学ぶ機会があるとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を定期的開催し、特別支援・配慮が必要な生徒の生活状況を確認して課題解決を行い、心理士から個々の特性、合理的配慮等、有効な助言を受け、個別の指導や特別支援育への理解を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 心理士が定期的に来校し、助言をいただける機会があることはとてもよい。特別支援教育はこれからさらに充実させていくべき部分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員の活用について、学年や学級の教員との更なる連携を構築。支援が必要な生徒の情報交換や支援の内容について打ち合わせをする機会を多くする。
	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインや特別支援の視点を取り入れた個に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や特別活動での提示の方法や教室環境を工夫し、一人一台端末の効果的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解や特別支援生徒への対応、学級経営等の研修を学期に1回実施。また外部講師を年に1回招聘し、研修する。 	85%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育専門員が校内を巡回、授業観察をし、教員、生徒を支援している。一人一台端末を使用し、翻訳機能を使用して授業を進めるなど、効果的な活用を図っている。個に応じた指導では、QUテストを実施し、学級経営に関して外部講師を招き研修を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教室の掲示物等は工夫されており、授業に集中できる環境である。配布物に関しては生徒のタブレット端末や保護者へのアプリ配信など、様々な環境の人たちに配慮されていると感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育専門員が授業を観察し、生徒の様子や必要な支援について、担任と連携している。QUテストの結果を分析し、個に応じた対応を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインについて、掲示物などは校内での工夫を感じる。校舎施設が現代の基準に対応していない部分も多く、施設の改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> QUを活用し、普段は見えにくい部分にも気づけるよう、教員の研修を充実させる。合理的配慮について全教員への周知を実施をする。

不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> SC・SSW・巡回指導心理士や生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部会等により、不登校対応の課題や手立てを検討し、関係諸機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や問題傾向の生徒には月1回、SSW・SCとの連携を図り、不登校や問題の長期化を防ぐ。 	80%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の教育相談部会において、SSW、SC、不登校対応巡回教員との連携を図っている。関係諸機関との連携も強化しているところはあるが、関係強化が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルワーカーやカウンセラーなど、教員以外で相談できる人がいるのはよい。 外部の教育相談機関と連携し、地域人材も活用しながら、より一層効果的な支援方法を考察し、不登校生徒を減らしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部会を定期的に関わり、情報交換をすることができた。SSW、SC、不登校対応巡回教員がそれぞれの立場で意見交換ができています。外部機関との連携をさらに強化し、学校外の情報もと入れられるようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内の委員会だけでなく、民生児童委員や保護司などの意見を聞く場が設定できると良いのではないかと。教員だけで対処しきれないところも多いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所や地域人材の活用が必要である。情報交換を密にし、互いの強みを生かした生徒への支援を充実させる。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの健全育成に向けた取組として、いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学級運営やいじめ対策等の校内研修や、Hyper-QUの結果を活用して生徒の主体性を活かした学校行事や学級組織作りを実施する。 不登校担当巡回教員を活用し、生徒の状況を把握し研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上、学年会議を行い、学校行事や学級運営の内容を検討する。 年に2回Hyper-QUを実施し、結果や傾向を活動や指導に活かしていく。 不登校担当巡回教員を活用した研修を年間1回実施。 	95%	95%	A	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を週1回、学年会議を月1回に加え、随時行い、行事、学級経営・集団活動の工夫・改善を実施している。情報を共有し組織的に課題に対応している。 1学期Hyper-QUを実施し、校内研修会にて分析、傾向や対応策を行った。また不登校担当巡回教員との研修で要支援や不登校生徒の対応を確認した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ撲滅宣言を生徒総会などの機会に生徒が主体となって発信していることが評価できる。よりよい人間関係や学校生活について考え、行事に意欲的に楽しく取り組んでいる。 夏休みに教員との三者面談、1年生はSCと全員面談する機会があり、子どもの発達段階での相談できる環境が整っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週1回のいじめ対策委員会に加え、随時報告、連絡の態勢をとることができている。 いじめ撲滅宣言について、全国いじめ問題子供サミットに生徒会長が出席し、その様子を全校生徒に紹介することで生徒の意識を高めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全国いじめ問題子供サミットについては、校内での掲示もあり、子ども達への啓発にとっても有効である。 いじめに気づいた教員がすぐに対策会議に報告できるシステムはこれからも継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時期を逃さず対応できるよう、対策委員会だけでなく、朝の主任会でも報告を上げることができるよう方針を継続する。 不登校巡回教員の効果的な活用方法を検討する。
学校（園）の現実に開かれた地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、保護者会、説明会等の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業の授業公開や学校行事の公開を行い、それぞれの行事・教育活動について積極的に学校の状況を伝える。 公開する教育活動については、地域・保護者がともに参加する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業は授業公開を実施。 毎学期の保護者会や説明会、道徳授業地区公開講座等も集合での実施を行い、交流・情報発信する機会を増やす。 	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校（授業）公開、運動会をはじめとした学校行事で、教育活動や生徒の様子について地域・保護者に学校の情報を伝えられた。 定期的保護者会や三者面談、進路説明会で教育活動や学校・生徒の実態を情報発信している。 学校公開当日に地域の防災訓練を校庭にて開催し、生徒も参加をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会をはじめとした学校行事や学校公開（授業公開）等の活動も積極的に参加でき、子どもたちの様子、各伝統行事を参観できた。 学期の定例の保護者会や進路・宿泊行事の説明会、三者面談等で学校の活動について。聞く機会が確保されている。 学校公開に合わせて地域の防災訓練が実施され、保護者が参加しやすかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期、学校（授業）公開を行い、生徒や学校行事の様子について地域・保護者に学校の情報を伝えた。 今年度の文部科学省研究協力校・区研究指定校の発表において学校関係者だけでなく保護者を招き、本校の様子を紹介することができた。 道徳授業地区公開講座や学校保健・給食運営委員会、それぞれの行事に関する保護者会を開催し、個々の相談について対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究指定校の発表は成果が見え、生徒の活動の様子がわかると同時に、教員の姿勢も知ることができて、とてもよかった。 今年度は地域の防災訓練が授業公開と同時に開催、生徒の参加ができ、地域としても学校と協働できたことはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開・行事についてはそれぞれ特色のある教育活動が実践されていることを、明確にかつ多くの地域・保護者に公開できるようにしていく。 行事やPTA活動にご協力いただけるよう、学校応援団とも連携して実施方法を工夫していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 自校の取組の積極的な発信として、学校ホームページの充実等 	<ul style="list-style-type: none"> 授業日においては、教育活動・各学校行事・学校生活の生徒の様子・給食献立等情報を発信する。また連絡アプリ等で緊急連絡を行い、早期に情報を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教育活動において学校HPを配信・更新し、授業日の日数と同等の数の学校日記の配信を行う。 	60%	70%	C	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでは学校だより、行事の様子、給食情報等を配信している。授業日の日数と同等の配信には至っていない。改善が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPで学校行事や学校だより、給食活動等について配信されている。さらに様々な活動について紹介されるとよい。 欠席連絡がアプリでしやすい。緊急連絡や重要な知らせについてはtetoruで確認できるとよい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新については、行事などの様子を伝えることは後期になり更新頻度が高くなり、改善傾向である。普段の授業の様子や、日々の出来事を記事にし、伝えていくことでさらに開かれた学校にしていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 緊急の連絡や重要な連絡は連絡アプリtetoruが大変有効である。欠席に連絡等も大変しやすい。校外学習のときなど、HPに随時写真がアップされるので保護者は活動の様子を知ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> HPIについては、行事だけでなく、日々の授業の様子も含め、多くの方に関心を持っていただけるよう工夫をする。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・充実・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者に対して教育活動に関する学校評価、生徒に対して各教科の授業評価を実施する。 学校評議員会、PTA運営委員会等を実施し、教職員と地域・家庭が教育活動について、意見・課題を共有し、連携する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の中で、生徒・教職員・地域・保護者に対して学校評価を実施し、教員が授業や行事等の教育活動について、検討・改善を行い、研修・会議等で周知する。 学校評議員会を年に2回、PTA運営委員会を年に3回実施し、教員と意見交換する機会をもつ。 	85%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> 前期生徒学校評価を実施し、肯定的な回答が90%以上だった。生徒の実態を把握し授業改善を行った。学校行事に関しては、教員の評価で振り返りを行い、内容の精選、業務軽減を行い、後期、来年度につなげていく。 学校評議員会を2回、PTA運営委員会を1回開催し、教育活動が円滑に行われているか確認した。さらに意見を多くいただく方策が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事がコロナを機に変革されているので、保護者やPTAの意見も積極的に取り入れ、一体となって学校の行事に協力できるとよい。 放課後補習教室や長期休業中の学習教室等、確かな学力の定着に向けて取り組んでいる。 PTA運営委員会や学校評議員会、保護者・地域が運営に積極的に参加し、地域の奉仕活動や祭礼行事に子どもたちと参加する機会が増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第2回生徒学校評価では、生徒の授業満足度が90%を超える結果であった。生徒の実態や授業・学習の課題を把握し、授業改善を続けていく。学校行事は、練習や準備の内容の精選を行い、生徒の負担、教員の業務量が過度になりすぎないように計画を立てていく。 学校評議会については、次年度も開催回数と同程度とし、ご意見をいただく方針である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の代表として学校と関わりを持ち、保護者の意見を吸い上げて意見を交換できる機会をこれからも大切にしていきたい。地域と学校が連携し、子どもたちの健全育成のためにこれからも定期開催を希望する。 PTAのシステムが変わり、保護者の参加意識も強制参加型からボランティアとして定着してきている。学校と連携して保護者が参加しやすい形を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と学校の教育活動の充実のため、生徒授業アンケートや、地域・保護者対象の学校評価を効果的に活用して、よりよいものになるよう、実行委員会や分掌部会で検討し、改善していく。
教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校としての働き方改革の目標を設定し、教育活動の精選や、スクールサポートスタッフ、副校長補佐、部活動外部指導員等、学校経営支援を担う人材を積極的に活用し、業務の軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷・配布作業、集計・採点業務・行事の補助等、依頼しやすい環境を整え、業務を教員から学校経営支援を担う人材に毎日1回以上、依頼する機会を作る。 各学校行事の反省、評価から課題を把握し、解決策を学期や年度末に検討する。 	65%	70%	C	<ul style="list-style-type: none"> スクールサポートスタッフ等の人材の活用は進んでいる。多くの業務を依頼し、最大限の働きをもらっているが、同時に、教員が担う分野の業務も増える傾向にあり、教員の業務の削減には至っていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域移行による外部指導員の充実や適切な指導力の向上が望まれる。 PTA活動においては、業務の精選、効率化を図っている様子がわかる。ICT機器やオンラインでの実施に積極的である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールサポートスタッフや校内別室指導支援員、事務補助など、学校経営支援を担う人材を効果的に活用し、業務を精選するようにしている、生徒対応や授業準備等に多くの時間を確保できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校で教員以外の人材が入ってきていることは望ましいことと感じている。移譲できるところは活用し、教員には授業に集中できる環境でいていただきたい。教員の健康が子どもたちの健康を維持する上でも重要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援を担う人材の効果的な活用に関して、業務分担を工夫し、他の学校の良い実践方法を取り入れ、働きやすい環境を作れるよう、工夫・改善していく。